



## 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当

TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2023/10/24  
SDS整理番号 26028350

製品等のコード : 2602-8350、2602-8360、2602-8380

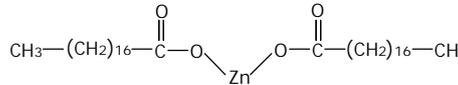
製品等の名称 : ステアリン酸亜鉛

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
無毒性フィルム・シート、耐加硫用フィルム・シート・レザの滑剤、  
グリース、塗料、化粧品、プラスチック離型剤、皮膚用散布剤、  
ゴム用加工助剤、繊維・コンクリート用防水剤、塩ビ安定剤  
化粧品原料(清浄用化粧品、頭髪用化粧品、基礎化粧品、メイクアップ  
化粧品、芳香化粧品、日焼け・日焼け止め化粧品、爪化粧品、アイライナー、  
口唇化粧品、口腔化粧品、入浴用化粧品)など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

## 2. 危険有害性の要約



## GHS分類

物理化学的危険性  
自然発火性固体 : 区分に該当しない  
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性  
急性毒性(経口) : 区分に該当しない  
急性毒性(経皮) : 区分に該当しない  
急性毒性(吸入:粉塵) : 区分に該当しない  
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない

環境に対する有害性  
水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない  
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない

絵表示又はシンボル : 該当なし

注意喚起語 : 該当なし

危険有害性情報 : 該当なし

## 注意書き

【安全対策】  
保護眼鏡、保護手袋、保護衣、呼吸用保護具を着用すること。  
【応急措置】  
該当なし  
【保管】  
直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	化学物質
化学名	：	ステアリン酸亜鉛 (別名) ジンクステアレート、ジステアリン酸亜鉛、 ビスステアリン酸亜鉛、ジオクタデカン酸亜鉛 (英名) Zinc stearate、Distearic acid zinc salt、 Zinc bisstearate、Bissteearic acid zinc salt、 Dioctadecanoic acid zinc salt、 Zinc distearate (EC名称)、 Octadecanoic acid, zinc salt (2:1) (TSCA名称)
成分及び含有量	：	ステアリン酸亜鉛、 10.0%以上 (Znとして)
化学式及び構造式	：	approx. Zn(C <sub>17</sub> H <sub>35</sub> COO) <sub>2</sub> 、 approx. Zn [CH <sub>3</sub> (CH <sub>2</sub> ) <sub>16</sub> COO] <sub>2</sub> 、 approx. C <sub>36</sub> H <sub>70</sub> O <sub>4</sub> Zn、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	632.33
官報公示整理番号	化審法	：
	安衛法	：
	：	(2)-615
	：	公表化学物質 (化審法番号を準用)
CAS No.	：	557-05-1
TSCAイベントリ	：	登録済 (557-05-1、ACTIVE)
ECイベントリ	：	登録済 (209-151-9)
危険有害成分	：	ステアリン酸亜鉛

## 4. 応急措置

吸入した場合	：	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	：	皮膚を流水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
目に入った場合	：	直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
飲み込んだ場合	：	口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状：		
吸入	：	発熱、咳、呼吸困難、チアノ - ゼ、化学性肺炎
皮膚	：	発赤
眼	：	発赤、痛み
経口摂取	：	腹部不快感、下痢

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	：	本品は可燃性である。 粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、散水
使ってはならない消火剤	：	棒状放水 (本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性	：	火災によって刺激性、毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	：	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境への流出をできるだけ防止する。
消火を行う者の保護	：	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防護服 (耐熱性) を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	：	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 風上から作業し、粉じんなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	：	河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
回収、中和	：	漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。

- 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。  
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材  
二次災害の防止策
- : 危険でなければ漏れを止める。
  - : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
  - : 床面に残るとする危険性があるため、こまめに処理する。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
粉じんの発生を防止する。粉じんの堆積を防ぐ。
- 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
- 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの  
取扱いをしてはならない。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策 : 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。  
保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件 : 直射日光や高温多湿を避けて保管する。  
容器を密閉して冷暗所に保管する。  
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸化剤
- 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：  
日本産衛学会 : 設定されていない。  
ACGIH : TLV-TWA 10 mg/m<sup>3</sup> (I)、3 mg/m<sup>3</sup> (R)
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。  
取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
- 手の保護具 : 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
- 眼の保護具 : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
- 衛生対策 : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。  
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
- 性状 : 柔らかい粉末（微粉末）
- 色 : 白色～わずかに淡黄色
- 臭い : 無臭～わずかな特異臭
- pH : データなし
- 融点 : 123～130
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : 分解
- 引火点 : 277
- 可燃性 : 可燃性
- 爆発範囲 : 下限 30vol%、上限 データなし
- 蒸気圧 : 0 mmHg (0 Pa) (実質的に)
- 相対ガス密度（空気 = 1） : データなし
- 密度又は相対密度 : 1.1 g/cm<sup>3</sup> (20 )
- 比重 : データなし
- 溶解度 : 水にほとんど溶けない (0.97mg/L)。  
希酸に溶けて分解する。  
エタノール、プロピレングリコール、グリセリン、エーテルにほとんど  
溶けない。  
ベンゼンに溶ける。
- オクタノール/水分配係数 : log Pow = 1.2

発火点 : 420  
 分解温度 : データなし  
 粘度 : データなし  
 動粘度 : データなし  
 粒子特性 : データなし

## GHS分類

自然発火性固体 : 本品の発火点は、420 (ICSC (2000)、NFPA (13th, 2002)、  
 HSDB (2005))であることから、区分に該当しないとした。  
 水反応可燃性化学品 : 水溶解度が測定されていることから、水中で安定である(ICSC  
 (2000)、Merck (13th, 2001)、SRC (2006))と考えられるので、  
 区分に該当しないとした。

## 10. 安定性及び反応性

## 安定性(反応性・化学的安定性)

: 通常取扱条件において安定である。

危険有害反応可能性 : 強熱、火炎にさらすと燃える。  
 強酸や強アルカリで加水分解される。  
 強酸化剤との混触で反応することがある。  
 粉末は空気との混合で、粉塵爆発の可能性がある。  
 乾燥状態では、攪拌、空気輸送、注入などにより、静電気を帯びること  
 がある。

避けるべき条件 : 高熱、日光、火源、裸火、スパーク

混触危険物質 : 強酸化剤

危険有害な分解生成物 : 加熱すると分解し、有毒な一酸化炭素、二酸化炭素、酸化亜鉛のガス、  
 ヒュームを発生する。

## 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50 > 5000mg/kg (EU-RAR (2009))  
 区分に該当しない。  
 経皮 ウサギ LD50 > 2,000 mg/kg (EU-RAR (2009))  
 区分に該当しない。  
 吸入(蒸気) 分類できない。  
 吸入(粉じん)ラット LC50 > 50mg/L/4Hr (EU-RAR (2004))  
 区分に該当しない。

皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない。  
 ウサギを用いた皮膚刺激性試験2件において、刺激性はみられなかった  
 との報告(EU-RAR (2009)、IUCLID (2000))や、ラットを用いた試験  
 (4時間適用)において、刺激性がみられなかったとの報告がある  
 (EU-RAR (2009))。ヒトにおいては、パッチテストにおいて刺激性みら  
 れなかったとの報告がある(EU-RAR (2009))。ヒトと動物で刺激性は  
 ないと報告があることから、区分に該当しないとした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない。  
 本物質の原液をウサギに適用した結果、刺激性はみられなかった  
 との報告が2件ある(EU-RAR (2009)、IUCLID (2000))ことから、  
 区分に該当しないとした。

呼吸器感作性 : 分類できない。

皮膚感作性 : 分類できない。  
 なお、ボランティア202人に対して本物質を10%含む物質を適用した結果、  
 感作性がみられなかったとの記載(EU-RAR (2009))や、ヒトに皮膚感作性が  
 ないと記載(IUCLID (2000))がある。

生殖細胞変異原性 : 分類できない。  
 in vivoの変異原性試験結果がないこと、及びin vitro試験において複数指標  
 に対する陽性結果が得られていないことに基づき、分類できないとした。

発がん性 : 区分に該当しない。  
 ACGIHでA4に分類されている(ACGIH (7th, 2001))。

生殖毒性 : 分類できない。

特定標的臓器毒性  
 (単回ばく露) : 分類できない。

特定標的臓器毒性  
 (反復ばく露) : 分類できない。

誤えん有害性 : 分類できない。

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない。  
 甲殻類(オオミジンコ) EC50 > 100 mg/L/48Hr

水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。

急性毒性は低く、また、難水溶性（水溶解度 = 0.97mg/L、EU-RAR, 2008）で、急速分解性がない（OECD TG 301Dによる28日間の分解度試験による分解度：5%（EU-RAR, 2008））ものの、生物濃縮性が低いと推測される（log Kow = 1.2（EU-RAR, 2008））ことから、区分に該当しないとされた。

残留性・分解性	： データなし。難分解性
生物蓄積性	： 低濃縮性。Log Kow = 1.2
土壤中の移動性	： データなし
オゾン層への有害性	： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 （参考）燃焼法 ケイソウ土、木粉（おが屑）等に混ぜ、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で焼却する。
汚染容器及び包装	： 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

国内規制（適用法令）	： 特段の規制なし（非危険物）
陸上規制	： 特段の規制なし（非危険物）
海上規制	： 特段の規制なし（非危険物）
航空規制	： 特段の規制なし（非危険物）
国連番号	： 非該当
国連分類	： 非該当
品名	： 非該当
海洋汚染物質	： 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類	： 非該当
特別の安全対策	： 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	： R7年3月31日まで、 名称等を表示すべき危険物及び有害物 （政令番号 第324号「ステアリン酸亜鉛」、対象重量%は 1） 名称等を通知すべき危険物及び有害物 （政令番号 第324号「ステアリン酸亜鉛」、対象重量%は 1） （別表第9）  R7年4月1日以降、 名称等を表示すべき危険物及び有害物から除外（非該当） 名称等を通知すべき危険物及び有害物から除外（非該当）
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	： 非該当〔2023年（R5年）4月1日施行にも非該当〕
毒物及び劇物取締法	： 非該当
消防法	： 非該当
船舶安全法	： 非該当
航空法	： 非該当
海洋汚染防止法	： 非該当
大気汚染防止法	： 有害大気汚染物質（中環審第9次答申の1） 「亜鉛及びその化合物」
水質汚濁防止法	： 指定物質（施行令第三条の三） 「亜鉛及びその化合物」
輸出貿易管理令	： キャッチオール規制（別表第1の16項） HSコード：2915.70

## 第29類 有機化学品

- ・輸出統計番号（2023年4月版）：2915.70-000  
「飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体 - パルミチン酸及びステアリン酸並びにこれらの塩及びエステル」
- ・輸入統計番号（2023年4月1日版）：2915.70-020  
「飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体 - パルミチン酸及びステアリン酸並びにこれらの塩及びエステル - 2 その他のもの」

## 16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

## 参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。